

芦北教育事務所の分析結果と今後の取組

1 成果及び課題

(1) 成果

○教科の調査の結果から

- ・中学校国語は、平均正答率が全国とほぼ同じ状況である。
- ・中学校国語は、平均正答率3割未満の割合が全国より低い。
- ・小学校国語と中学校国語、数学、英語は、無解答率の平均が全国を下回っている。

○質問紙調査の結果から

- ・授業でのPC・タブレット等ICT機器の活用や、中学校における英語の学習活動に対する意識等で成果が見られる。
- ・全学調の結果等に関する、学校全体の教育活動改善のための活用等で成果が見られる。

(2) 課題

○教科の調査の結果から

- ・小学校国語、算数と中学校数学、英語は、平均正答率が全国より低い。
- ・小学校国語、算数と中学校数学、英語は、平均正答率3割未満の割合が全国より高い。
- ・小学校算数は、無解答率の平均が全国を上回っている。
- ・昨年度の県学調における中学2年での成果が、今年度の全学調につながっていない。

○質問紙調査の結果から

- ・参考指標1「授業では、課題の～」は中学校で、参考指標2「家で自分で計画～」は小学校で課題である。また、家庭学習時間は、小中いずれにおいても課題である。
- ・小学校では児童の自己肯定感、中学校では生徒の教職員への相談に課題が見られる。
- ・同一中学校区内での教育課程に関する共通の取組については、依然として課題である。

芦北教育事務所の分析結果と今後の取組

2 今後の重点取組

- 重点取組①「熊本の学び」アクションプロジェクトの更なる推進
(芦北・水俣学力向上対策協議会提言書の取組を通して)
 - ・全学調の結果分析に基づく、提言書に係る重点実践事項の検証及び見直し
 - ・各学校の実態に応じた、学校総体としての取組の確実な推進
 - ・取組の中間まとめの実施（9月末日での中間評価）

- 重点取組②子供が主体的に学ぶ授業づくりの推進
(教師カパワーアップ研修、スクールアシスト等を通して)
 - ・身に付けさせたい資質・能力を明確にした、学習の本質に迫る単元デザイン及び授業づくり
 - ・教師による机間指導や子供全員によるアウトプットの場の取入れによる、定着状況の見取り
 - ・「参加者が学びの主体」となる研修改善を通じた、「子供が学びの主体」となる授業改善への意識向上

- 重点取組③ 同一中学校区内小中連携による学力向上の取組推進
(9/8管内学力向上リーダー研修、10/5管内教務主任研修、10/31管内教頭等研修等を通して)
 - ・全学調の結果分析に基づく、成果と課題の同一中学校区内での共有
 - ・小中9年間を見据えた授業づくり、学習規律、家庭学習の充実